

総合計画策定に向けた講演会開催 「住民が主役のまちづくり」



第1次総合計画の策定に向け作業を進めている八重瀬町では8月18日、東風平農村環境改善センターホールで「住民が主役のまちづくり」をテーマにした講演会を開催し約80名が参加しました。琉球大学の島袋純教授を講師に招き行われた講演では、総合計画の策定プロセスを「市民性教育」及び「職員研修」と位置づけ、メニュー型の総合計画ではなく市民主導の目標経営型（目標達成型）総合計画とする必要性を訴えました。

講演後には、参加者から質疑時間を設け、「目で見てわかる目標経営型の総合計画にするためにはどのように話し合っていけばいいのか」、「各自治会ごとに行われているワークショップにおいて参加者の意見を集約させるためにはどのような点に注意したほうがいいのか」など意見が出されました。

八重瀬町では、平成19年4月に実施したアンケートの結果を踏まえた上で各自治会にまちづくり地域ワークショップを開催しています。総合計画策定に向けた住民と行政との話し合いを目的としており、8月の中旬から10月の中旬の期間に33自治会をまわり住民の意見を取り入れた総合計画を策定しているところです。



ものづくりサマースクール



友寄、高良、具志頭3つの児童館合同で行われたものづくりスクールが8月3日開催されました。この企画

は、沖縄地域知的財産戦略本部、特許庁、沖縄総合事務局が主催したものに実施協力したものです。当日は町内小学生45名が参加し、日頃はあまりなじみのない発明や特許の話を知りたりしました。またビデオを見た後、講師の先生から2進法から出来る数当てゲームの作り方をならい製作しました。最初はとまどっていた児童も要領をつかむと楽しみながら作り完成後は友達同士で遊んでいました。



第2回八重瀬町婦人の主張大会

社会の一員として女性及び母親の立場からこれまでの学習と実践を基にいろいろな意見を主張し、自らの能力開発と婦人の地位向上を図り、婦人会活動の活性化を目指すことを目的に八重瀬町婦人の主張大会が8月11日、東風平改善センターで開催され120名が参加しました。大会には、中村直子さん（東風平）、我那覇恵美子さん（安里）、嘉数笑津子さん（宜次）、照屋利枝子さん（富盛）4名が子育てや命の大切さ、地域活動について熱弁で主張しました。その中で照屋さんと我那覇さんは南部地区の代表として派遣され、さらに照屋さんは沖縄県婦人の主張大会にも派遣されました。



学年親子集会で豆腐とピーマン入り餃子をつくりました

具志頭小学校2年生とその保護者が9月4日、学校で親子とともに豆腐とピーマン入り餃子づくりを行いました。親子が一緒になって楽しく充実した時間を過ごすと共に、学年の親睦を深めてほしいと企画された親子集会には、保護者も合わせて約150名が参加しました。児童たちは、初めて体験した豆腐づくりが大豆から出来ることを学び豆腐絞りは夢中になるくらい楽しく作っていました。また、ピーマンが苦手という児童も餃子にするとおいしく食べれたという声もあり大成功の親子集会となりました。



高知交流

八重瀬・高知児童生徒交歓会が8月20日から2日間の日程で行われ八重瀬町から小学生7名と中学生4名が高知県の児童生徒たちと交流をもちました。国際化に対応した広い視野をもった人材の育成を図り、町民の資質の向上と町の活性化を図ることを目的に行われている児童交歓会は具志頭村時代から数え今回で26回目を向かえました。

生徒たちは、高知県の観光名所を訪問し歴史や文化などを学び、高知県の青少年と交歓会を通じて、友情を深め楽しい思い出となる交歓会となりました。



千羽鶴未来プロジェクト

平和を願いつくった千羽鶴を再生紙にしようと千羽鶴未来プロジェクト（NPO法人重松イングリグまゆみ理事長）が9月8日、沖縄県平和記念資料館で行われました。八重瀬町からは、ただこ学園、あけもどろ学園、よもぎ学園、のびる保育園、ボランティアなど約70名の参加がありました。式典では県平和祈念資料館に寄せられた約70万羽の折り鶴を同NPO法人の平原秀則副理事長に引き渡しました。式典の後は、千羽鶴を解体して、箱に詰める仕分け作業も行われました。



ミニ夏祭り

毎年恒例のミニ夏祭りが町社会福祉協議会の助成などの協力のもと、7月21日、具志頭児童館で行われました。当日は中学生や保護者の協力を得て、約100名の親子がくじ引きやかき氷などで楽しみました。